

大阪市の推計人口（年報）

～平成23年10月1日現在の推計人口と1年間の人口異動の動向～

平成23年11月

大 阪 市

目 次

1	人 口 総 数	1
2	男 女 別 人 口	1
3	世 帯 数	1
4	区 別 人 口	2
5	区 別 世 帯 数	5
6	人 口 異 動	7
7	年 齢 (3 区 分) 別 人 口	11

《利用上の注意》

・推計方法について

推計人口は、住民基本台帳登録者および外国人登録者数の毎月の増減を国勢調査結果の人口に加減して算出したものである。本資料は平成 22 年国勢調査結果による推計人口である。

・人口異動について

推計人口については出生と死亡の差を自然動態（自然増減）とし、転入と転出の差を社会動態（社会増減）とした。転入、転出は市内の区相互間を含んでいる。

・年齢（3区分）別人口について

年齢（3区分）別人口は、平成 22 年国勢調査の年齢（各歳）、男女別人口を基準に、「住民基本台帳」及び「外国人登録」の月々の年齢（各歳）、男女別人口異動を加減して算出した推計人口である。

1 人口総数

平成23年10月1日の大阪市の推計人口は267万579人で、前年（平成22年10月1日）と比べると5265人（0.2%）の増加となった。

表1-1 人口の推移

年次	人口 (人)	増減数 (人)	増減率 (%)
17年	2,628,811	4,036	0.2
18年	2,634,944	6,133	0.2
19年	2,642,854	7,910	0.3
20年	2,650,670	7,816	0.3
21年	2,659,796	9,126	0.3
22年	2,665,314	5,518	0.2
23年	2,670,579	5,265	0.2

1 太字は国勢調査結果。その他は各年10月1日の推計人口

2 平成18年から21年の人口は平成22年国勢調査結果により修正を行っているため、人口の増減数と後述の人口異動の増減数とは一致しない。

2 男女別人口

平成23年の人口を男女別にみると、男性が129万6084人、女性が137万4495人となっている。

男女別の人口を平成22年と比べると、男性が2286人（0.2%）増、女性が2979人（0.2%）増とそれぞれ増加している。人口性比（女性100人に対する男性の数）は94.3となっている。

表2-1 男女別人口の推移

年次	男(人)		女(人)		性比 (女性=100)
		増減数(人)		増減数(人)	
17年	1,280,325	302	1,348,486	3,734	94.9
18年	1,280,924	599	1,354,020	5,534	94.6
19年	1,284,596	3,672	1,358,258	4,238	94.6
20年	1,287,428	2,832	1,363,242	4,984	94.4
21年	1,291,950	4,522	1,367,846	4,604	94.5
22年	1,293,798	1,848	1,371,516	3,670	94.3
23年	1,296,084	2,286	1,374,495	2,979	94.3

1 太字は国勢調査結果。その他は各年10月1日の推計人口

2 平成18年から21年の人口は平成22年国勢調査結果により修正を行っているため、人口の増減数と後述の人口異動の増減数とは一致しない。

3 世帯数

平成23年の世帯数は132万9516世帯で、1世帯当たり人員は2.01人となっている。

これを平成22年と比べると、1万1526世帯（0.9%）の増加となっている。

1世帯当たり人員は一貫して減少を続けており、平成22年の2.02人から2.01人とさらに減少している。

表3-1 世帯数の推移

年次	世帯数 (世帯)			1世帯当たり 人員(人)
		増減数(世帯)	増減率(%)	
17年	1,245,012	12,030	1.0	2.11
18年	1,261,113	16,101	1.3	2.09
19年	1,273,724	12,611	1.0	2.07
20年	1,289,751	16,027	1.3	2.06
21年	1,305,639	15,888	1.2	2.04
22年	1,317,990	12,351	0.9	2.02
23年	1,329,516	11,526	0.9	2.01

太字は国勢調査結果。その他は各年10月1日の推計人口による。

4 区別人口

平成23年の人口を区別にみると、平野区が19万9301人と最も多く、次いで東淀川区が17万6650人、淀川区が17万2289人、城東区が16万5500人、住吉区が15万5309人と続いている。

この1年間の人口増加数を区別にみると、中央区が2293人と最も多く、次いで北区が2265人、西区が1825人、福島区が1651人、浪速区が1404人など、市域中心部を中心に増加している。

人口増加率においても中央区が2.9%と最も高く、次いで福島区が2.5%、浪速区が2.3%、西区が2.2%、北区が2.1%、天王寺区が1.5%など、市域中心部で増加率が高くなっている。

一方、人口減少数では、生野区が1387人と最も多く、次いで住之江区が914人、大正区が787人、港区が731人、西成区が708人と続いている。人口減少率では、大正区が1.1%と最も高く、次いで生野区が1.0%、港区が0.9%、住之江区が0.7%、西成区が0.6%と続いている。

表4-1 区別の推計人口

区名	人口(人)		対前年(平成22年)	
	平成23年	平成22年	増減数(人)	増減率(%)
大阪市	2,670,579	2,665,314	5,265	0.2
北区	112,657	110,392	2,265	2.1
都島区	103,091	102,632	459	0.4
福島区	68,941	67,290	1,651	2.5
此花区	66,077	65,569	508	0.8
中央区	80,980	78,687	2,293	2.9
西区	84,883	83,058	1,825	2.2
港区	84,216	84,947	△731	△0.9
大正区	68,723	69,510	△787	△1.1
天王寺区	70,814	69,775	1,039	1.5
浪速区	63,149	61,745	1,404	2.3
西淀川区	97,461	97,504	△43	△0.0
淀川区	172,289	172,078	211	0.1
東淀川区	176,650	176,585	65	0.0
東成区	80,376	80,231	145	0.2
生野区	132,622	134,009	△1,387	△1.0
旭区	91,922	92,455	△533	△0.6
城東区	165,500	165,832	△332	△0.2
鶴見区	111,250	111,182	68	0.1
阿倍野区	106,668	106,350	318	0.3
住之江区	126,296	127,210	△914	△0.7
住吉区	155,309	155,572	△263	△0.2
東住吉区	130,140	130,724	△584	△0.4
平野区	199,301	200,005	△704	△0.4
西成区	121,264	121,972	△708	△0.6

平成22年は国勢調査結果。平成23年は10月1日現在推計人口。

図4-1 区別の推計人口（平成23年）

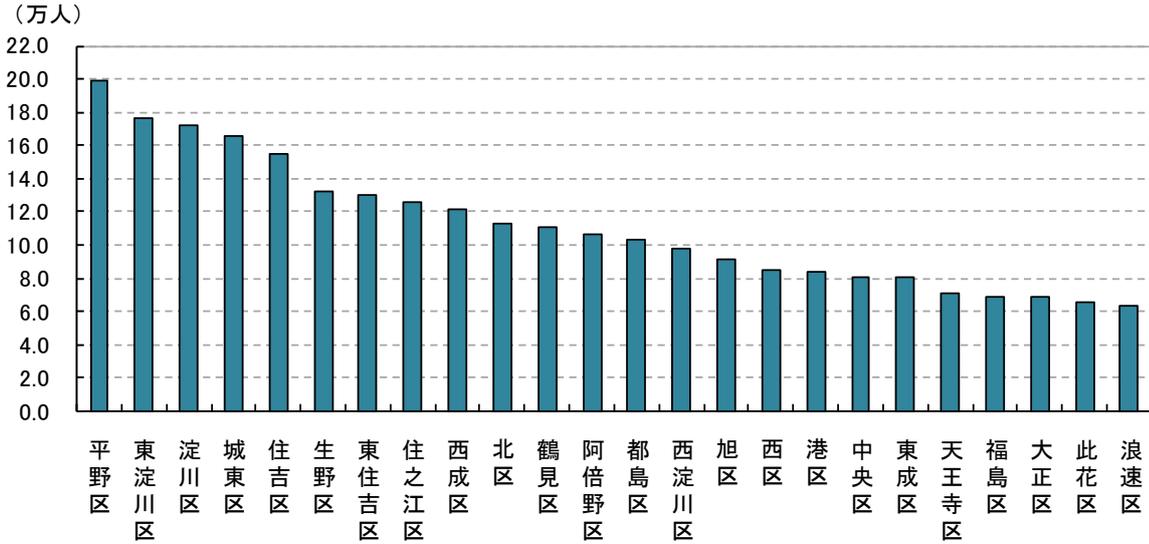


表4-2 人口増加数上位7区

順位	平成20年～21年		平成21年～22年		平成22年～23年	
	区名	増加数（人）	区名	増加数（人）	区名	増加数（人）
1	中央区	2,856	中央区	2,567	中央区	2,293
2	北区	1,858	北区	2,457	北区	2,265
3	西区	1,833	西区	1,812	西区	1,825
4	天王寺区	1,744	浪速区	1,489	福島区	1,651
5	浪速区	1,434	福島区	1,411	浪速区	1,404
6	福島区	1,366	天王寺区	974	天王寺区	1,039
7	淀川区	1,124	此花区	602	此花区	508

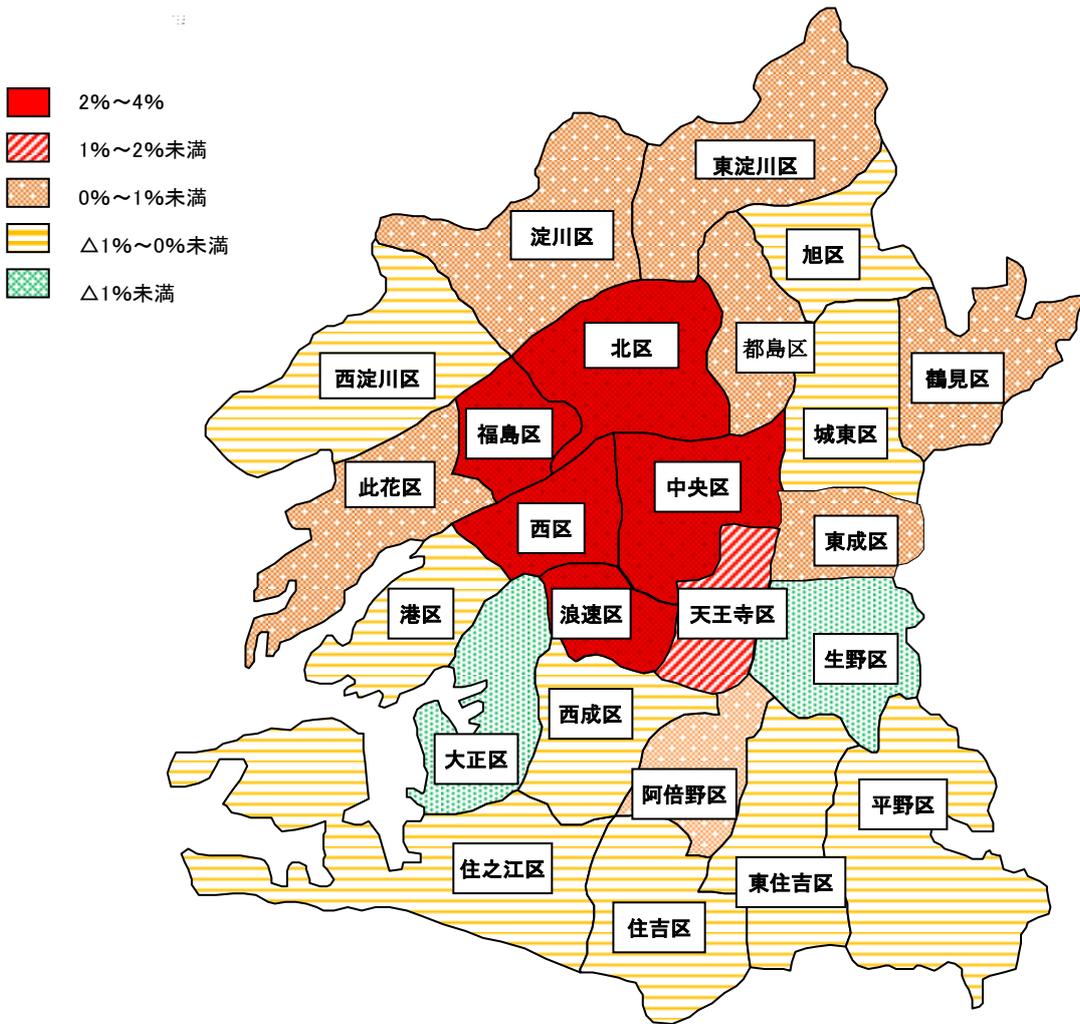
表4-3 人口減少数上位7区

順位	平成20年～21年		平成21年～22年		平成22年～23年	
	区名	減少数（人）	区名	減少数（人）	区名	減少数（人）
1	西成区	△ 1,465	西成区	△ 2,513	生野区	△ 1,387
2	東住吉区	△ 1,110	東住吉区	△ 996	住之江区	△ 914
3	大正区	△ 662	大正区	△ 926	大正区	△ 787
4	住吉区	△ 579	住吉区	△ 729	港区	△ 731
5	生野区	△ 546	生野区	△ 701	西成区	△ 708
6	阿倍野区	△ 511	旭区	△ 568	平野区	△ 704
7	旭区	△ 502	東淀川区	△ 418	東住吉区	△ 584

表4-4 人口増加率上位7区

順位	平成20年～21年		平成21年～22年		平成22年～23年	
	区名	増加率（%）	区名	増加率（%）	区名	増加率（%）
1	中央区	3.9	中央区	3.4	中央区	2.9
2	天王寺区	2.6	浪速区	2.5	福島区	2.5
3	浪速区	2.4	北区	2.3	浪速区	2.3
4	西区	2.3	西区	2.2	西区	2.2
5	福島区	2.1	福島区	2.1	北区	2.1
6	北区	1.8	天王寺区	1.4	天王寺区	1.5
7	鶴見区	0.8	此花区	0.9	此花区	0.8

図4-2 区別人口増減率の分布



5 区別世帯数

平成23年の世帯数を区別にみると、東淀川区が9万2530世帯と最も多く、次いで淀川区が9万1772世帯、平野区が8万6958世帯、城東区が7万6401世帯、西成区が7万4422世帯と続いている。世帯数が最も少ない区は此花区の2万9836世帯で、次いで大正区が3万482世帯、天王寺区が3万5289世帯と続いている。

この1年間の世帯数の増加数を区別にみると、中央区が1689世帯と最も多く、次いで北区が1595世帯、西区が1217世帯、福島区が1008世帯と続いており、21区で増加となっている。(表5-1)

世帯数の増加率では、中央区が3.4%と最も高く、次いで福島区が2.9%、西区が2.6%、北区が2.4%など、市域中心部で高い増加率となっている。

1世帯当たり人員をみると、鶴見区が2.45人と最も多く、次いで平野区が2.29人、大正区が2.25人、住之江区と西淀川区が2.23人と続いている。一方、最も少ない区は浪速区の1.46人であり、次いで中央区が1.60人、西成区が1.63人と続いている。

表5-1 区別世帯数

	世帯数(世帯)		対前年(平成22年)		1世帯当たり 人員(人)
	平成23年	平成22年	増減数(世帯)	増減率(%)	平成23年
大阪市	1,329,516	1,317,990	11,526	0.9	2.01
北区	66,799	65,204	1,595	2.4	1.69
都島区	50,423	50,075	348	0.7	2.04
福島区	35,387	34,379	1,008	2.9	1.95
此花区	29,836	29,495	341	1.2	2.21
中央区	50,751	49,062	1,689	3.4	1.60
西区	48,290	47,073	1,217	2.6	1.76
港区	40,559	40,713	△154	△0.4	2.08
大正区	30,482	30,521	△39	△0.1	2.25
天王寺区	35,289	34,730	559	1.6	2.01
浪速区	43,313	42,392	921	2.2	1.46
西淀川区	43,761	43,608	153	0.4	2.23
淀川区	91,772	91,116	656	0.7	1.88
東淀川区	92,530	91,894	636	0.7	1.91
東成区	39,217	38,920	297	0.8	2.05
生野区	63,036	62,808	228	0.4	2.10
旭区	43,928	43,842	86	0.2	2.09
城東区	76,401	76,043	358	0.5	2.17
鶴見区	45,454	45,264	190	0.4	2.45
阿倍野区	49,730	49,318	412	0.8	2.14
住之江区	56,615	56,593	22	0.0	2.23
住吉区	74,346	73,917	429	0.6	2.09
東住吉区	60,217	60,057	160	0.3	2.16
平野区	86,958	86,500	458	0.5	2.29
西成区	74,422	74,466	△44	△0.1	1.63

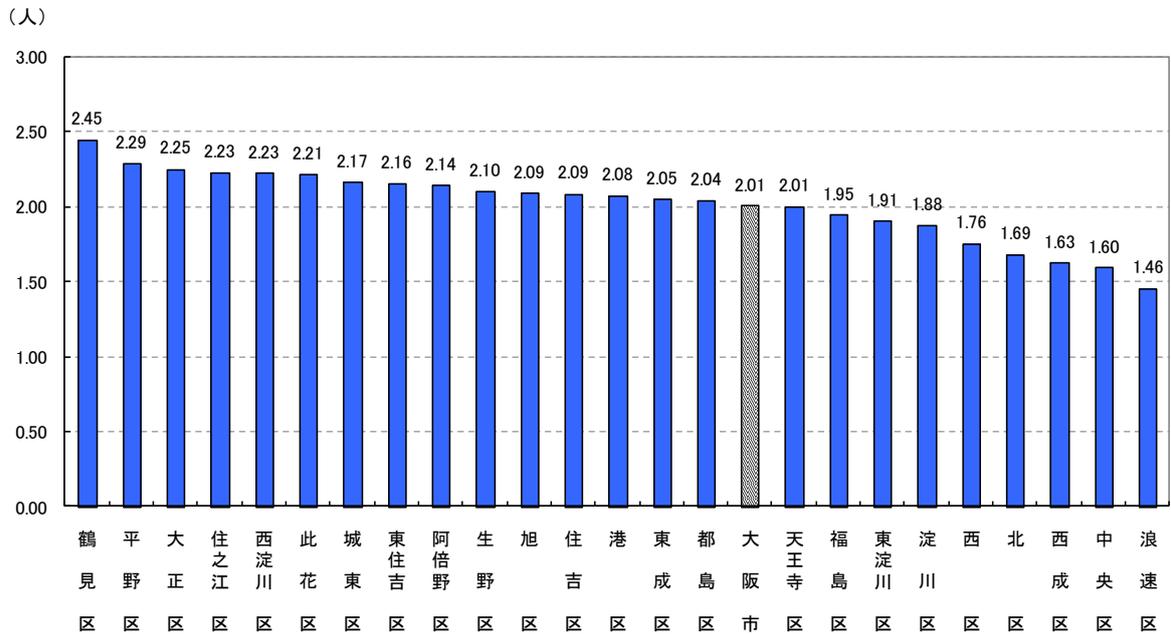
平成22年は国勢調査結果。平成23年は10月1日現在推計人口

表5-2 世帯数及び1世帯当たり世帯人員の上位及び下位5区

世帯数（世帯）			
上位5区		下位5区	
東淀川区	92,530	此花区	29,836
淀川区	91,772	大正区	30,482
平野区	86,958	天王寺区	35,289
城東区	76,401	福島区	35,387
西成区	74,422	東成区	39,217

1世帯当たり世帯人員(人)			
上位5区		下位5区	
鶴見区	2.45	浪速区	1.46
平野区	2.29	中央区	1.60
大正区	2.25	西成区	1.63
住之江区	2.23	北区	1.69
西淀川区	2.23	西区	1.76

図5-1 区別の1世帯当たり世帯人員



6 人口異動（前年10月中から当年9月中の合計）

(1) 自然動態

平成23年の自然動態（出生と死亡の差）は3945人の減少となり、平成22年（3184人減）と比べると減少幅が761人拡大し、自然増減率（人口千対^注）は1.5%の減少となっている。

自然増加数を区別にみると、鶴見区が466人と最も多く、次いで西区が441人、福島区が209人、中央区が181人、北区が168人など11区で増加となっている。一方、自然減少数では、西成区が1985人と最も多く、次いで生野区が812人、東住吉区が549人、阿倍野区が368人と続いている。

自然増加率では、西区が5.3%と最も高く、次いで鶴見区が4.2%、福島区が3.1%と続いている。自然減少率では、西成区が16.3%と最も高く、次いで生野区が6.1%、大正区が4.8%と続いている。

注：前年10月1日現在人口1000人に対する比率

ア 出生

平成23年の出生数は2万3766人で、平成22年（2万3608人）と比べると158人の増加となり、出生率（人口千対）は8.9%（前年8.9%）となった。

出生数を区別にみると、平野区が1871人と最も多く、次いで東淀川区が1694人、城東区が1615人、淀川区が1576人と続いている。出生数が最も少ない区は浪速区の501人となっている。

出生率では、鶴見区が12.3%と最も高く、次いで西区が11.5%、福島区11.4%が、中央区10.2%と続いている。最も低いのは西成区の5.1%となっている。

イ 死亡

平成23年の死亡数は2万7711人で、平成22年（2万6792人）と比べると919人と大幅な増加となり、死亡率（人口千対）は10.4%（前年は10.1%）となっている。

死亡数を区別にみると、西成区が2612人と最も多く、次いで平野区が2089人、生野区が1753人、東淀川区が1656人と続いている。死亡数が最も少ない区は西区の518人である。

死亡率では、西成区が21.4%と最も高く、次いで生野区が13.1%、大正区が12.2%と続いている。最も死亡率が低いのは西区の6.2%となっている。

表6-1 自然動態の推移

年次	自然増減			出生			死亡		
	増減数 (人)	対前年 (人)	自然増減率 (%)	出生数 (人)	対前年 (人)	出生率	死亡数 (人)	対前年 (人)	死亡率
17年	△ 1,878	△ 2,077	△ 0.7	22,706	△ 975	8.7	24,584	1,102	9.4
18年	△ 1,412	466	△ 0.5	22,823	117	8.7	24,235	△ 349	9.2
19年	△ 1,660	△ 248	△ 0.6	23,568	745	8.9	25,228	993	9.6
20年	△ 1,506	154	△ 0.6	24,028	460	9.1	25,534	306	9.7
21年	△ 1,703	△ 197	△ 0.6	23,346	△ 682	8.8	25,049	△ 485	9.5
22年	△ 3,184	△ 1,481	△ 1.2	23,608	262	8.9	26,792	1,743	10.1
23年	△ 3,945	△ 761	△ 1.5	23,766	158	8.9	27,711	919	10.4

1 自然増減数、出生数、死亡数は前年10月中から当年9月中の合計である。

2 自然増減率、出生率、死亡率は前年10月1日現在人口1000人に対する比率である。

3 平成18年から21年の人口は平成22年国勢調査結果により修正を行っているため、人口異動の増減数と前述の人口推移の増減数とは一致しない。

表6-2 区別自然動態

区名	自然増減数 (人)	自然増減率 (‰)	出生数 (人)	出生率 (‰)	死亡数 (人)	死亡率 (‰)
大阪市	△ 3,945	△ 1.5	23,766	8.9	27,711	10.4
北区	168	1.5	1,029	9.3	861	7.8
都島区	16	0.2	946	9.2	930	9.1
福島区	209	3.1	769	11.4	560	8.3
此花区	△ 158	△ 2.4	615	9.4	773	11.8
中央区	181	2.3	800	10.2	619	7.9
西区	441	5.3	959	11.5	518	6.2
港区	△ 177	△ 2.1	741	8.7	918	10.8
大正区	△ 337	△ 4.8	513	7.4	850	12.2
天王寺区	148	2.1	683	9.8	535	7.7
浪速区	△ 138	△ 2.2	501	8.1	639	10.3
西淀川区	79	0.8	946	9.7	867	8.9
淀川区	25	0.1	1,576	9.2	1,551	9.0
東淀川区	38	0.2	1,694	9.6	1,656	9.4
東成区	△ 230	△ 2.9	663	8.3	893	11.1
生野区	△ 812	△ 6.1	941	7.0	1,753	13.1
旭区	△ 361	△ 3.9	763	8.3	1,124	12.2
城東区	59	0.4	1,615	9.7	1,556	9.4
鶴見区	466	4.2	1,365	12.3	899	8.1
阿倍野区	△ 368	△ 3.5	754	7.1	1,122	10.6
住之江区	△ 228	△ 1.8	1,024	8.0	1,252	9.8
住吉区	△ 214	△ 1.4	1,378	8.9	1,592	10.2
東住吉区	△ 549	△ 4.2	993	7.6	1,542	11.8
平野区	△ 218	△ 1.1	1,871	9.4	2,089	10.4
西成区	△ 1,985	△ 16.3	627	5.1	2,612	21.4

1 自然増減数、出生数、死亡数は平成22年10月中から平成23年9月中の合計である。

2 自然増減率、出生率、死亡率は平成22年10月1日現在人口1000人に対する比率である。

表6-3 自然増減率及び出生率、死亡率の上位7区

順位	自然増減率		出生率		死亡率	
	区名	(‰)	区名	(‰)	区名	(‰)
1	西区	5.3	鶴見区	12.3	西成区	21.4
2	鶴見区	4.2	西区	11.5	生野区	13.1
3	福島区	3.1	福島区	11.4	大正区	12.2
4	中央区	2.3	中央区	10.2	旭区	12.2
5	天王寺区	2.1	天王寺区	9.8	東住吉区	11.8
6	北区	1.5	城東区	9.7	此花区	11.8
7	西淀川区	0.8	西淀川区	9.7	東成区	11.1

(2) 社会動態

平成23年の社会動態（転入と転出の差）は9210人の増加となり、平成22年（9178人増）と比べると増加幅が32人拡大し、社会増減率（人口千対）は3.5%（前年は3.4%）の増加となっている。

社会増加数を区別にみると、中央区が2112人と最も多く、次いで北区が2097人、浪速区が1542人、福島区が1442人、西区が1384人など13区で増加となっている。一方、社会減少数では、住之江区が686人と最も多く、次いで生野区が575人、港区が554人、平野区が486人と続いている。

社会増加率では、中央区が26.8%と最も高く、次いで浪速区が25.0%、福島区が21.4%、北区が19.0%、西区が16.7%など、社会増加数と同様に市域中心部で高い増加率となっている。社会減少率では、港区と大正区が6.5%で最も高く、住之江区が5.4%と続いている。

ア 転入

平成23年の転入数は17万5872人で、平成22年（17万7693人）と比べると1821人の減少となり、転入率（人口千対）は66.0%（前年は66.8%）となっている。

転入数を区別にみると、中央区が1万2942人と最も多く、次いで淀川区が1万2445人、北区が1万2275人、東淀川区が1万1224人、浪速区が9716人と続いている。転入数が最も少ない区は大正区の2222人である。

転入率では、中央区が164.5%と最も高く、次いで浪速区が157.4%、北区が111.2%、西区が109.8%と続いている。転入率でも、大正区が32.0%と最も低くなっている。

イ 転出

平成23年の転出数は16万6662人で、平成22年（16万8515人）と比べると1853人の減少となり、転出率（人口千対）は62.5%（前年は63.3%）となっている。

転出数を区別にみると、淀川区が1万2259人と最も多く、次いで東淀川区が1万1197人、中央区が1万830人、北区が1万178人と続く。転出数が最も少ない区は大正区の2672人である。

転出率では、中央区が137.6%と最も高く、次いで浪速区が132.4%、西区が93.1%、北区が92.2%と続いている。転出率においても、大正区が38.4%と最も低くなっている。

表6-4 社会動態の推移

年次	社会増減			転入			転出		
	増減数 (人)	対前年 (人)	社会増減率 (%)	転入数 (人)	対前年 (人)	転入率 (%)	転出数 (人)	対前年 (人)	転出率 (%)
17年	8,144	1,293	3.1	179,006	△ 3,911	68.2	170,862	△ 5,204	65.1
18年	8,021	△ 123	3.1	178,432	△ 574	67.9	170,411	△ 451	64.8
19年	10,045	2,024	3.8	180,072	1,640	68.3	170,027	△ 384	64.5
20年	9,800	△ 245	3.7	179,069	△ 1,003	67.8	169,269	△ 758	64.0
21年	11,304	1,504	4.3	181,851	2,782	68.6	170,547	1,278	64.3
22年	9,178	△ 2,126	3.5	177,693	△ 4,158	66.8	168,515	△ 2,032	63.4
23年	9,210	32	3.5	175,872	△ 1,821	66.0	166,662	△ 1,853	62.5

1 社会増減数、転入数、転出数は前年10月中から当年9月中の合計である。

2 社会増減率、転入率、転出率は前年10月1日現在人口1000人に対する比率である。

3 平成18年から21年の人口は平成22年国勢調査結果により修正を行っているため、人口異動の増減数と前述の人口推移の増減数とは一致しない。

表6-5 区別社会動態

区名	社会増減数 (人)	社会増減率 (%)	転入数 (人)	転入率 (%)	転出数 (人)	転出率 (%)
大阪市	9,210	3.5	175,872	66.0	166,662	62.5
北区	2,097	19.0	12,275	111.2	10,178	92.2
都島区	443	4.3	6,711	65.4	6,268	61.1
福島区	1,442	21.4	5,980	88.9	4,538	67.4
此花区	666	10.2	3,757	57.3	3,091	47.1
中央区	2,112	26.8	12,942	164.5	10,830	137.6
西区	1,384	16.7	9,119	109.8	7,735	93.1
港区	△ 554	△ 6.5	4,058	47.8	4,612	54.3
大正区	△ 450	△ 6.5	2,222	32.0	2,672	38.4
天王寺区	891	12.8	6,246	89.5	5,355	76.7
浪速区	1,542	25.0	9,716	157.4	8,174	132.4
西淀川区	△ 122	△ 1.3	4,784	49.1	4,906	50.3
淀川区	186	1.1	12,445	72.3	12,259	71.2
東淀川区	27	0.2	11,224	63.6	11,197	63.4
東成区	375	4.7	5,617	70.0	5,242	65.3
生野区	△ 575	△ 4.3	7,164	53.5	7,739	57.7
旭区	△ 172	△ 1.9	4,722	51.1	4,894	52.9
城東区	△ 391	△ 2.4	8,817	53.2	9,208	55.5
鶴見区	△ 398	△ 3.6	5,274	47.4	5,672	51.0
阿倍野区	686	6.5	6,634	62.4	5,948	55.9
住之江区	△ 686	△ 5.4	5,262	41.4	5,948	46.8
住吉区	△ 49	△ 0.3	8,034	51.6	8,083	52.0
東住吉区	△ 35	△ 0.3	6,799	52.0	6,834	52.3
平野区	△ 486	△ 2.4	8,456	42.3	8,942	44.7
西成区	1,277	10.5	7,614	62.4	6,337	52.0

- 1 社会増減数、転入数、転出数は平成22年10月中から平成23年9月中の合計である。
- 2 社会増減率、転入率、転出率は平成22年10月1日現在人口1000人に対する比率である。

表6-6 社会増減率及び転入率、転出率の上位7区

順位	社会増減率		転入率		転出率	
	区名	(%)	区名	(%)	区名	(%)
1	中央区	26.8	中央区	164.5	中央区	137.6
2	浪速区	25.0	浪速区	157.4	浪速区	132.4
3	福島区	21.4	北区	111.2	西区	93.1
4	北区	19.0	西区	109.8	北区	92.2
5	西区	16.7	天王寺区	89.5	天王寺区	76.7
6	天王寺区	12.8	福島区	88.9	淀川区	71.2
7	西成区	10.5	淀川区	72.3	福島区	67.4

7 年齢（3区分）別人口

(1) 年齢（3区分）別人口

平成23年の人口について年齢（3区分）別割合をみると、0～14歳人口（年少人口）は11.6%、15～64歳人口（生産年齢人口）は65.6%、65歳以上人口（老年人口）は22.8%となっている。

平成22年と比べると、年少人口は1065人の減少、生産年齢人口は2780人の増加、老年人口は3552人の増加となっている。

表7-1 年齢3区分別推計人口

年次	人 口 (人)					割 合 (%)				
	総数 1)	0～14歳	15～64歳	65歳以上	うち 75歳以上	総数 2)	0～14歳	15～64歳	65歳以上	うち 75歳以上
平成22年	2,665,314	308,093	1,734,432	598,835	270,993	100.0	11.7	65.7	22.7	10.3
23年	2,670,579	307,028	1,737,212	602,387	283,842	100.0	11.6	65.6	22.8	10.7

平成22年は国勢調査結果

平成23年は10月1日現在年齢別推計人口

1) 人口総数は年齢「不詳」を含むため、年齢3区分別人口の合計と一致しない。

2) 構成比は年齢「不詳」を除いている。

(2) 区別の年齢（3区分）別人口

区別の年齢3区分別人口を平成22年と比べると、年少人口の増加が最も多いのは西区の328人増で、最も減少が大きいのは平野区の620人減であった。生産年齢人口では、中央区の1931人増が最も多く、最も減少が大きかったのは住之江区の1049人減であった。老年人口では、住之江区の424人増が最も多く、最も減少が大きかったのは東成区の54人減であった。

表7-2 区別の年齢（3区分）別人口

区名	平成23年				平成22年からの増減数		
	総数 1)	0～ 14歳	15～ 64歳	65歳 以上	0～ 14歳	15～ 64歳	65歳 以上
大阪市	2,670,579	307,028	1,737,212	602,387	△ 1,065	2,780	3,552
北区	112,657	9,377	80,373	20,260	300	1,737	228
都島区	103,091	11,682	69,213	20,910	65	202	192
福島区	68,941	7,932	47,210	12,916	321	1,199	131
此花区	66,077	8,032	42,416	15,516	71	466	△ 29
中央区	80,980	6,442	61,268	13,264	313	1,931	49
西区	84,883	8,925	63,129	12,817	328	1,265	232
港区	84,216	9,847	53,925	19,919	△ 120	△ 634	23
大正区	68,723	8,289	42,418	17,662	△ 224	△ 640	77
天王寺区	70,814	8,782	47,566	12,808	194	717	128
浪速区	63,149	3,626	45,163	11,739	17	1,196	191
西淀川区	97,461	13,448	62,587	20,872	△ 40	△ 190	187
淀川区	172,289	18,219	117,831	34,297	△ 37	12	236
東淀川区	176,650	19,803	118,784	36,099	△ 177	△ 82	324
東成区	80,376	9,092	52,005	18,523	14	185	△ 54
生野区	132,622	13,898	81,703	36,061	△ 307	△ 1,039	△ 41
旭区	91,922	10,278	57,055	24,253	△ 100	△ 423	△ 10
城東区	165,500	21,679	106,516	36,537	△ 224	△ 435	327
鶴見区	111,250	18,240	70,652	21,695	△ 68	△ 20	156
阿倍野区	106,668	12,912	67,476	25,637	48	263	7
住之江区	126,296	15,156	81,071	29,335	△ 289	△ 1,049	424
住吉区	155,309	18,908	97,765	37,666	△ 204	△ 332	273
東住吉区	130,140	15,644	80,367	33,613	△ 198	△ 364	△ 22
平野区	199,301	27,874	121,995	48,570	△ 620	△ 474	390
西成区	121,264	8,943	68,724	41,418	△ 128	△ 711	133

1) 総数は年齢「不詳」を含むため、内訳とは一致しない。

区別の年齢（3区分）別人口の割合をみると、年少人口では鶴見区が16.5%と最も高く、次いで平野区が14.0%と続く。最も低いのは浪速区の6.0%となっている。

生産年齢人口では中央区が75.7%と最も高く、次いで浪速区が74.6%と続く。最も割合が低いのは西成区の57.7%となっている。

老年人口では西成区が34.8%と最も高く、次いで生野区が27.4%と続く。最も割合が低いのは西区の15.1%となっている。

表7-3 区別の年齢（3区分）別人口割合

区名	平成23年				22年からの増減		
	総数	0～	15～	65歳	0～	15～	65歳
	1)	14歳	64歳	以上	14歳	64歳	以上
大阪市	100.0	11.6	65.6	22.8	△ 0.1	△ 0.0	0.1
北区	100.0	8.5	73.1	18.4	0.1	0.1	△ 0.2
都島区	100.0	11.5	68.0	20.5	0.0	△ 0.1	0.1
福島区	100.0	11.7	69.4	19.0	0.2	0.1	△ 0.3
此花区	100.0	12.2	64.3	23.5	0.0	0.2	△ 0.2
中央区	100.0	8.0	75.7	16.4	0.2	0.2	△ 0.4
西区	100.0	10.5	74.4	15.1	0.2	△ 0.1	△ 0.1
港区	100.0	11.8	64.4	23.8	△ 0.0	△ 0.2	0.2
大正区	100.0	12.1	62.0	25.8	△ 0.2	△ 0.2	0.4
天王寺区	100.0	12.7	68.8	18.5	0.1	0.0	△ 0.1
浪速区	100.0	6.0	74.6	19.4	△ 0.1	0.3	△ 0.1
西淀川区	100.0	13.9	64.6	21.5	△ 0.0	△ 0.2	0.2
淀川区	100.0	10.7	69.2	20.1	△ 0.0	△ 0.1	0.1
東淀川区	100.0	11.3	68.0	20.7	△ 0.1	△ 0.1	0.2
東成区	100.0	11.4	65.3	23.3	△ 0.0	0.1	△ 0.1
生野区	100.0	10.6	62.1	27.4	△ 0.1	△ 0.1	0.3
旭区	100.0	11.2	62.3	26.5	△ 0.0	△ 0.1	0.1
城東区	100.0	13.2	64.7	22.2	△ 0.1	△ 0.1	0.2
鶴見区	100.0	16.5	63.9	19.6	△ 0.1	△ 0.1	0.1
阿倍野区	100.0	12.2	63.6	24.2	0.0	0.1	△ 0.1
住之江区	100.0	12.1	64.6	23.4	△ 0.1	△ 0.4	0.5
住吉区	100.0	12.3	63.3	24.4	△ 0.1	△ 0.1	0.2
東住吉区	100.0	12.1	62.0	25.9	△ 0.1	△ 0.0	0.1
平野区	100.0	14.0	61.5	24.5	△ 0.3	△ 0.0	0.3
西成区	100.0	7.5	57.7	34.8	△ 0.1	△ 0.3	0.3

1)割合は年齢「不詳」を除いて算出している。

表7-4 年齢（3区分）別人口割合の上位7区

順位	0～14歳		15歳～64歳		65歳以上	
	区名	割合 (%)	区名	割合 (%)	区名	割合 (%)
1	鶴見区	16.5	中央区	75.7	西成区	34.8
2	平野区	14.0	浪速区	74.6	生野区	27.4
3	西淀川区	13.9	西区	74.4	旭区	26.5
4	城東区	13.2	北区	73.1	東住吉区	25.9
5	天王寺区	12.7	福島区	69.4	大正区	25.8
6	住吉区	12.3	淀川区	69.2	平野区	24.5
7	阿倍野区	12.2	天王寺区	68.8	住吉区	24.4

(3) 年齢（5歳階級）別社会動態

平成23年の社会動態を年齢（5歳階級）別にみると、15歳から29歳までの各階級で大幅な社会増加となっており、特に「20～24歳」では9151人の増加となっている。対して、0歳から9歳までの各階級では社会減少となっており、特に「0～4歳」は3009人の社会減少となっている。

表7-5 年齢（5歳階級）別転入、転出及び社会増加数

	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳
転入	7,591	3,131	2,187	7,160	31,702	36,661	25,066	16,738
転出	10,600	3,886	2,214	4,747	22,551	34,959	26,322	17,422
社会増加	△ 3,009	△ 755	△ 27	2,413	9,151	1,702	△ 1,256	△ 684
	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
転入	10,771	7,631	5,996	5,121	5,600	3,274	2,568	4,675
転出	10,724	7,129	5,336	4,734	5,178	3,162	2,376	5,322
社会増加	47	502	660	387	422	112	192	△ 647

図7-1 年齢（5歳階級）別社会動態

